

教育研究審議会議事録

開催日時 及び場所	令和5年4月27日(木) 午後2時00分から午後2時57分まで 特別会議室 Web (ZOOM) 会議同時実施	
出欠状況	出席:26名 欠席:0名	出席:尾池議長、今井委員、酒井敏委員、富沢委員、渡邊委員、 小林委員、長澤委員、花岡委員、酒井公夫委員、 石川委員、伊吹委員、剣持委員、六井委員、山下委員、 眞鍋委員、三浦委員、澤田委員、竹下委員、篁委員、 永倉委員、轟木委員、仲井委員、小川委員、細川委員、 林委員、藤森委員
<p>1 審議事項</p> <p>(1)競争的資金への応募について</p> <p>(2)客員教授の称号付与の推薦について (薬学部7件)</p> <p>2 報告事項</p> <p>(1)令和5年度 入学者選抜実施結果</p> <p style="margin-left: 20px;">① 静岡県立大学</p> <p style="margin-left: 20px;">② 静岡県立大学短期大学部</p> <p>(2)寄附講座の開設について</p> <p>(3)令和4年度 各委員会等活動状況報告について</p> <p>3 その他</p> <p>(1)令和5年度 学部・研究科等における取組報告について</p> <p>(2)委員からの報告</p> <p>(3)学外委員からの意見</p>		

・教育研究審議会委員の紹介

令和5年度 教育研究審議会委員について、議長から紹介された。

・前回議事録(案)の確認

令和5年3月の教育研究審議会議事録(案)について、承認された。

1 審議事項

(1)競争的資金への応募について (説明者:酒井敏委員)

本件競争的資金への応募に当たり、グローバル地域センター外部資金受入審査会から意見書が提出され、本学の指針・行動方針に基づき、産学官連携推進本部への事前相談があった。

産学官連携推進本部に提出された資料及び相談内容を基に説明し、提案のとおり承認された。

(2)客員教授の称号付与の推薦について (薬学部7件) (説明者:石川委員)

薬学部における7件の客員教授の称号付与について、本学共同研究教員、共同研究テーマ、称号付与の期間、主な経歴及び業績に関して説明し、提案のとおり承認された。

2 報告事項

(1)令和5年度 入学者選抜実施結果

① 静岡県立大学 (説明者:細川委員)

実質倍率について、高い年と低い年が隔年で見られ、次年度はそれを念頭に置い

て次年度入試を実施していく必要がある。

外国人留学生については、今年度のコロナ感染症規制緩和により入学者数も回復してくると予想している。

その他の資料については、数値データを参考にさせていただきたい。

② 静岡県立大学短期大学部（説明者：林委員）

令和5年度入学者選抜から、歯科衛生学科及びこども学科で募集人員の内訳が変更となった。内訳は記載のとおり。

18歳人口の減少により、短期大学部においては影響が出ており、受験生の確保が年々難しくなっているが、総数としては、昨年とほぼ同数の志願者を確保することができた。昨年度のオープンキャンパスや入試説明会等において丁寧な説明を繰り返し実施したことが、効果として出たと考えている。

介護福祉士専攻では年々志願者数が減っており、毎年定員割れ対策を講じているが成果が出ていないことを受け、今年度から「受験生確保緊急対策プロジェクト」を短期大学部で立ち上げ、短期大学部全体で定員割れ対策に取り組んでいる。

(2) 寄附講座の開設について（説明者：眞鍋委員）

大学院薬学研究院に寄附講座を開設する。名称は「茶健康科学講座」とし、寄附の時期及び期間は記載のとおり。

研究領域の概要は「茶の機能性に関するヒトの新たなエビデンスを創成するための研究」で、株式会社伊藤園との共同研究を行う。

<意見>

・寄附講座の研究領域の概要にある「エビデンスを創成する」について、エビデンスは創成するものではなく、一定の理論や仮説を導くためのデータや、元になるようなもののイメージだが、自然科学ではこのような使い方を一般的にするのか教えていただきたい。（委員）

<回答>

・本寄附講座の担当教員に「新たなエビデンスを創成するとは、どういうことなのか。」と確認し、次回の会議開催時に回答する。（議長）

(3) 令和4年度 各委員会等活動状況報告について（説明者：市川経営戦略部長）

教育研究審議会へ毎年度の活動状況を報告することが規定されている委員会等について、各委員会等から提出された報告書を取りまとめたので報告する。

該当する委員会等は全部で23あり、全てから報告書を提出いただいた。

各報告書には、活動回数、活動内容、今後の課題等が記載されているので、各自確認をお願いします。

3 その他

(1) 令和5年度 学部・研究科等における取組報告について

（説明者：市川経営戦略部長）

今年度も資料に記載のスケジュールにより、各学部研究科等の取組報告をお願いします。

報告については昨年度同様に、各10分以内で簡潔明瞭をお願いします。

(2) 委員からの報告（説明者：細川委員）

チャット GPT について、昨日人工知能学会から大規模生成モデルに対してのメッ

ページという形で、学会の声明文が出た。様々な対応及び対策並びに意見が出ている。

1週間前の静岡新聞では、「チャット GPT～県内教育界も関心～」とあり、静岡大学の対策例が上がっていた。どちらかと言えば、静岡大学はその生成 AI に対して懸念が強いということで、規制をする方向で検討しているという内容であった。

その他、朝日新聞の夕刊では「チャット GPT～お仕事お助け～」という形で、生成 AI を積極的に活用していこうという方向の記事がある。

昨日の人工知能学会の声明では、「教育の場に対して」の冒頭部分に、「一律な利用の禁止は何も生み出しません。」とあり、積極的に利用する前提で、どのように教育に活用するかを検討すべきと考える。

<意見>

- ・私も入学式の式辞で使ったが、なかなか面白いものである。(議長)

(3) 学外委員からの意見

① 花岡委員

入学者選抜実施の結果を報告いただいたが、今の入学者選抜方法は、いつ頃からフィックスしているのか教えていただきたい。

また、現在の形で学生に対するフォローアップをどの程度しているか。また、システムがうまく機能しているのか、このまま続けていいのか、それとも何か別の方法を考えたほうがいいのかといった検討を行っているか、教えていただきたい。

<回答>

・今年は「教育の認証評価」を受けることになっており、成績をどのように評価しているか、入学時から卒業時にかけてどのような変化があるかなどが評価の対象になるので、詳しく説明をしなければならない。(議長)

・「質保証」はかなり問題になっており、フォローアップなどについては、成績や入試選抜方法別で学生がどのように伸びていくかということは、学部ごとにデータをとっている。(委員)

・例えば、短期大学部からの報告で「なかなか学生が集まらない分野がある」という話があり、それはフォローアップもさることながら、質の高い受験生を増やすという課題も持っており、その課題に対しては若手の先生方が非常に熱心に議論し、高校生に対して、より具体的なキャンペーンを実施しようとして一生懸命考えているので、その面からも御意見をいただけると嬉しい。(議長)

② 酒井公夫委員

現在、この時期の企業は昨年度の決算を行っており、静鉄グループの昨年度決算のトピックスにおいて面白いテーマが入っているので、いくつか御紹介をさせていただきたい。

1つはコロナの影響を色々な意味で受けた1年であり、1番は人流の問題である。御存知のとおり、感染者数が増えると人流が減る。反対に感染者が減ると人流が増えるという繰り返しをしているが、全国共通で「85%の壁」があり、JRや東京の施設など、大半がコロナ感染拡大前に対して85%で止まっており、今後はこの数字がベースになってくる。

秋口から全国旅行支援等、あるいはインバウンド復活等で旅行客の数字が増えてきているが、反対に懸念として、学会等での出張の際にホテル代が上がっていることが実態としてある。価格等においては激しく変動し、上がっているので、様々な

生活に影響が出てくると思う。

その他、トヨタユナイテッド静岡でトヨタ車を県内販売しているが、半導体不足により、昨年度は引き渡しが非常に減った。

グループ全体の昨年度の決算目標は、関連会社、子会社、親会社、全てで25社あるが、全ての会社で営業黒字を出そうという目標で動き出した。結果としては、連結全体では黒字で、個社では25分の23社が黒字、2社が赤字であった。赤字の2社は1つが静鉄タクシーで、人流の減に伴う収入が足りなかったこと。もう1つは静鉄ホームズという建売不動産販売会社で、半導体不足により家財が揃わないなどの影響を受け、引き渡しが遅れたことが要因となった。

新年度は不透明な部分があるが、各企業も苦勞しており、人件費が上がるなど、新年度も厳しい1年となることが見込まれる。

<意見>

・大学にも影響があり、例えば宿泊費の上昇や人流の影響も重なり宿泊自体が困難になっているような話もある。その他、資材不足あるいは価格高騰で修理や工事が滞るような話もある。(議長)

・貴社の業績は大体全国の平均的な線なのか、それともかなり良い方なのか。また、「徳川家康効果」などが反映されているのかどうか。(議長)

<回答>

・運輸中心の企業は厳しい状況だが、厳しい状況は飛行機から地域の交通まで広がっているのので、恐らく平均的な数字だと思う。御質問のあった「徳川家康効果」は大きな影響が出ている。日本平ロープウェイは事業の規模とすると大きくないが、コロナ禍前の300%（3倍）の方に御利用いただいております、大変ありがたい。一方で大型客船が清水港に入り始め、その方々もショートトリップで日本平東照宮に足を運んでいただき利用増に繋がっているが、東照宮に来た外国のお客様が、ロープウェイが理由で遅れて船が出港できなかったという話にならないように、非常に気を遣って運営をしている。(酒井公夫委員)

担当：経営財務室 市野 雄基